

贈る言葉

聖学院大学 学長
清水 正之



このダイアリー（2016年版）には聖学院大学の学生生活に関わる、ほとんどすべてのことが収録されています。聖学院大学が皆さんにどのような方針と目標をもっているかがはっきりと示されています。大学は基本的には、学生の皆さんの自主性と自由を重んじています。そのなかで、日常的に自ら行わねばならない手続きや、生活上の何かの課題にぶつかったとき、参照して欲しい内容が書かれています。是非活用して、有意義な大学生活を送ってください。もちろん、あなたが何かを知りたい、どうすればよいか、迷ったときは、教員や職員に遠慮なくたずねてください。

新入生をはじめ、皆さんは、この「現代」という、個人と社会が、さまざまな困難に直面している時代に、学生生活を送ることとなります。ふりかえれば、皆さんは、中学生、高校生のときに、東日本大震災、原子力発電所の事故を体験しました。そしてその後も、グローバル化の波が押し寄せ、日本の社会のありかたに大きな影響を与えている現実を目前にしています。また経済至上主義は社会のいたるところでその激しい力をふるい、人間や社会を根こそぎ変えかねないような状況です。このような中であなたたちが、自分らしい人生を送る際の基軸とすべきことは一体どのようなものなのか、確信をもてず、不安をもつこともあろうかと思えます。大学もそして皆さんの学生生活も、そうした状況と無縁であるわけではありません。しかしまた大学での学びこそ、生きる基軸を与えてくれるものとなるはずですよ。

学生生活のなかで、一番の比重を占めるのは、いうまでもなく「学ぶ」ことです。学ぶということには、二つあります。有用な知識となるもの、もう一つは、知識を組み合わせ新たな課題を解き判断する、その方向性を考えるものです。高校生のときに、課題学習の体験をこなしてきた皆さんには、よく理解できると思います。大学の授業や学びにも、この二つのものがあります。そのなかでも、とくに既成の知識を組み立て、組み直し、あらたな課題や、問題に向かう学びにこそ、大学らしさがあるといえるでしょう。これまでにすでに付けてきた知識や先入観が、根底からこわされるスリリングな体験こそ、大学での学びの意味があります。

世界的に高い知識と学力が求められています。それは一方で、学校での好成绩をとることが第一の意味であるかのような、誤解を招くこととなります。しかし、広い教養と専門的な学びを身につけた人を社会が求めるという要請はとまりません。学ぶことはそれ自体、他者のためになることであり、それは人間の本来的な要請であり、学歴社会のためにそうなったわけではありません。

大学での学びは、高校までのそれとは大いに異なります。

大学での学びを通して、皆さんは、たとえば、政治学的なあるいは経済学から見た見方、福祉学の立場から、あるいは児童学から、あるいは人文学からみた人間や社会、世界についての見方と方法を学ぶこととなります。そしてそれらの見方の根底に、共通する人間の福利や幸せとは何か、という関心が横たわっていることに気付くでしょう。

学生生活を大いに楽しむと共に、ともに学び、ともに学生生活を送る、仲間との結びつきを深めてください。「学ぶ」ことは「まねぶ」ことでもあります。個性あふれる友人、鋭い議論をする友人、リーダーシップを発揮する仲間、他者の喜びや悲しみや悩みを深い共感をもって受け止めてくれる心豊かな仲間、献身

的に皆さんを助けてくれる職員、新鮮なものの見方に眼を拓かせてくれる教員、そうした身近な人たち、仲間たちのありかたを手引きとして「まねてみる」ことも、またあなたを一段と飛躍させることとなるでしょう。

学ぶことには言葉が重要な意味をもってきます。学んで考えること、それによって自らの言葉を手にし、正しく自分を表現する力を養い、また自分の言葉で語る友人や仲間たちの言葉を正しく聴き、受け取る、その繰り返しこそ、大学生活を通して人格的な交わりを深め、あなたの人間的な深みを一層もたらしてくれるに違いありません。

さあ、ともに聖学院大学での学生生活を、新年度を、あらたな気持ちで始めましょう。